

2016年3月期 決算説明会 質疑応答

2016年5月10日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：再生ロードマップは何故、目標（のれん等償却前営利率 20%）を1年前倒しで達成できたのか？ 12月発表予定の中長期成長戦略の方向性は、再生ロードマップからどう変わってくるのか？

A1：低収益事業の縮小、減損、工場の整理など行ったことに加え、SCM オペレーションの質を高めてきた。いずれも想定よりも早く成果が表れた。これにより全体として筋肉質な体制を構築できた。また、収益性の高い「Ultimaster」が予定よりも早く日本でローンチできたことも寄与した。再生ロードマップでは収益改善に注力してきたが、次の中長期成長戦略では、「持続的かつ収益性のある成長」に原点回帰する。

Q2：FY16業績予想における、営利への為替影響がマイナス 85 億円、中でも影響の大きい新興国通貨の影響（マイナス 66 億円）について説明頂きたい。

A2：タイ・パーツは 10 億円強の影響。他通貨の影響は一桁億円。中南米は複数通貨の影響を集めると 20 億円。一国の通貨影響は限定的だが、総体として大きい。FY15Q4 に入って急激に通貨が動き、FY16 は通年で効く。但し、この新興国の為替影響は、これ以上のダウンサイドリスクはないと考えている。

Q3：日本での「Ultimaster」の販売状況を、競合製品の影響含めて説明して欲しい

A3：FY15Q3 で好調なスタートを切った。同 Q4 に他社新製品が導入され、影響は受けたが想定範囲内のレベルであった。Nobori 含むグローバルでの DES 全体の売上は FY15 実績で約 200 億円、前年伸長 40%。FY16 はグローバルで二桁の伸長を期待している。

Q4：FY16 に欧米カテーテル・ニューロの販売投資増を見込むようだが、次の中長期成長戦略に向けての先行投資と考えればいいのか？

A4：その通りである。FY14 にも同様の先行投資を行っているが、今回違うのは、日本でエンジニアの数を大幅に増やす点である。

Q5：日本・心臓血管カンパニーの FY16 売上ガイダンスが 1%減収とのこと。「Ultimaster」が通年で寄与にも関わらず何故なのか？

A5：公定価改定の影響が一番大きい。「Ultimaster」のシェア減は見込んでいない。

Q6：ペリフェラル・ニューロへの投資、新製品導入が続いているが、いつ頃から成果が見えてくるのか？

A6：ニューロに関しては、多くの新製品がローンチされ二桁成長を続けている。カテーテルでは、今後治療デバイスを伸ばしていく為に、トレーニングや臨床開発などを担う

人員を増強している。FY16においては、ペリフェラル領域の新製品による大きな貢献は見込んでいないが、中長期的には米国を中心に、ペリフェラル等、治療デバイスのビジネスを拡大していきたい。

Q7： 米国デバイススタックスの一時的な非課税、TCVSの品質システム改善コスト減、原油安などは、FY16業績予想にどの程度織り込んでいるのか？

A7： デバイスタックスは、FY16は15億円前後、原油安の影響は5億円程度を予想に織り込んだ。TCVSについて、システム全体、血液モニターについては昨年度、既にFDAによる適合性が確認されている。残りは人工心肺装置。先週からFDAの査察が始まった。制限解除される前提で30億円の増益要因をFY16業績予想に織り込んでいる。

Q8： FY16新製品パイプラインについて、IVUSが上げられているが、どの程度の売上貢献をみているのか？

A8： 売上は数十億円だが、現行品との置換え故、FY15比で売上増は3~5億円。今度のIVUSは、周波数を高くした。近位部のより詳細な情報がとれるとともに、高い周波数では従来難しいとされてきた深部の情報もとることが可能となった。競争力がありシェアアップが期待できる。

Q9： 米国の工場が、シースに関連してFDAからWarning Letterを受けたが、影響は？

A9： この工場では長らくシースを製造している。一部のファイルが古いと指摘を受けた。既にFDAへは回答を済ませ、改善活動に入っている。グループで年間数十ものFDA査察を受けクリアしている。現在、収支へのマイナスの影響は見込んでいない。

Q10： FY16業績予想において、「コストダウンによる粗利益改善効果」がFY15実績よりも小さいが背景は？

A10： 何かマイナス要素があるわけではない。FY15に大きな改善効果があり、発射台が上がっている。固定費減や、「Ultimaster」売上増、製造原価減、其々のプラス影響度が昨年度よりやや小さいと考えている。但し、これらは期中の業績次第では大きくなる可能性はある。

以上